

神戸港の被災状況



- ・神戸港の約116kmに及ぶ水際線の大部分が被災
- ・大型岸壁239及び23kmの物揚場の大部分が被災
- ・外貨の21のコンテナターミナル全てが使用不能
- ・神戸大橋、六甲大橋等臨港交通施設が通行不能
- ・多くの上屋、荷役機械、民間倉庫等が使用不能

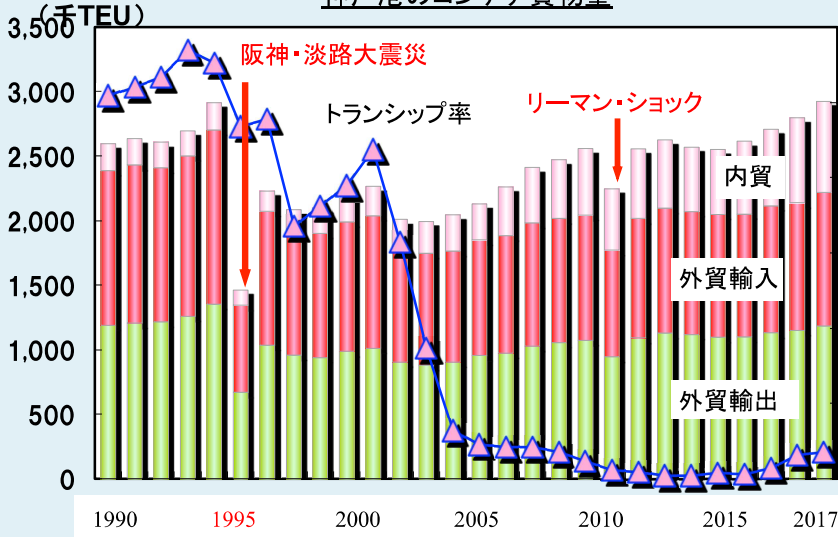


コンテナターミナルの液状化



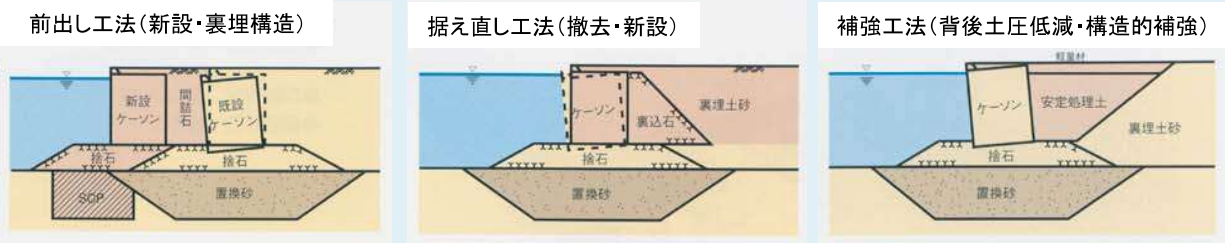
コンテナターミナルの岸壁の被災

神戸港のコンテナ貨物量



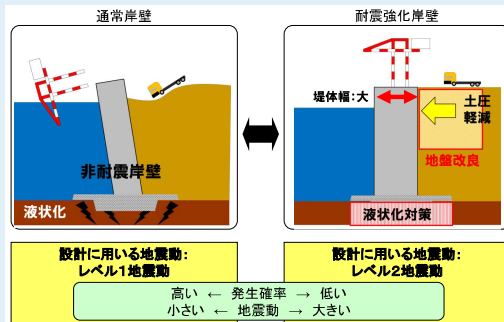
- 30.0% 被災の主な原因は強い地震動による地盤の液状化
- 25.0% 液状化による構造物の沈下、移動、倒壊
- 20.0% 震災前のコンテナ貨物量に戻るのに震災から20年以上かかった!
- 15.0% ただし、トラシップ率は低いままで、神戸港のハブ機能は回復していない
- 10.0%
- 5.0%
- 0.0%

岸壁の復旧工法



耐震強化岸壁の整備

港湾機能を維持し、海上からの物資輸送や救援部隊の輸送、被災者の救援輸送、基幹的な海上物流ネットワークの確保等の重要な役割を果たす



耐震化対策

- ・ハーバーハイウェイの橋脚耐震化
- ・コンテナターミナルの液状化対策
- ・ガントリークレーンの耐震化
- ・高潮対策ポンプ場の建屋耐震化